

# 官民一致の説社

## 児童の喫煙を禁煙

近來紙巻煙草の流行するにつれ何時となく兒童の間にも喫煙の風を催ほし小學校の生徒、官廳の給仕、會社銀行商家等の丁稚小僧にして公然巻煙草をくはへて大道を往来し或は三々五々賭博に嗜みを以て内々喫煙するものあるは毎度見受くる所なり如何にも厭ふべき舉動なるのみならず其身體に及ぼすの害は決して少小ならず且つ又時として火災の原因となる掛念もなき非されば今内に断然禁絶するの工夫肝要る可し煙草の害は今更述ぶるをでもなければ其成分中にはニコチンと稱する毒素と曰ふ人の神経を侵して其働きを鈍らうするが故に或は忘率などをの稱ある所以にして其効能は唯一時の氣を鎮むるに過ぎず語り神經を麻痺せしむるものにして之が爲め身體に及ぼすの害は甚だ明白なるものなりニコチンの量は煙草に由て異れど云々左百分の一より九の間即ち煙草百目に付き一匁乃至九匁を含む者にしてハヴァナ、マニラの上等品と雖も多少の有毒を免かれずと云ふ左れば大人にても多量に煙草を喫ふ者は咽喉を痛め胃の働きを弱め肺炎喘吐等の症を發し年月を経るときは顔面蒼白に變じ胸骨手顎へて純然たる病人となる事あり况して身體の發育十分ならざる少年輩殊に幼童の身にしてもニコチンの毒に中るともあらば活潑なる精神は可らず其上に目前に危険なるはマツチ及び吸丸の始末にして本末無分別なる子供の事なれば火を慎む心持なく只人に見らるゝを恐れ物蔭に隠れてマツチを弄び或は燃さしの煙草を木屑紙屑の中に打撲てなきするより思はぬ災を生ずるふどもある可し危險千萬ならずや思ふに世間の父兄たるものは言ふ迄もなくして不治の病に陥るものもある可し甚だ恐るゝ如き惡習は容赦なく是の如きは児童の行爲を監督して煙草の如きの惡習は容赦なく只人に見らるゝを恐れ踏出せば其眼の及ばざるを如何せん聞く所に據れば猶逸にては法を設けて小學生徒の喫煙を嚴禁し又米國に於ては未成年者に自用の煙草を賣るを許さず犯すものは嚴罰に處するの規定ありと云ふ我國に於ては未成年者に自用の煙草を賣るのはわざとも未だ其罪を防ぐの工夫の法を設けて之を廻行せしらんには以て其害を聞かず一言して注意を乞ふものなり

## ○米國の陸軍

れども其内實際從軍し得べきものは十一萬千七百六十人にして歩兵十萬百七十九人、兵五千五十五人、騎兵四千九百七十八人、の兵卒一千二百七十人、舟役千四百七十八なるが國民軍の數は總計一千三十七萬八千餘なるよし又或る米國將校の説にいよ／＼西班牙と戰闘を開いたる時に當り戦死及び恩給を算入せずして彼の國の費やす可き一箇月軍費は一億弗(我二億圓)に上の可しと尙ほイジアナ州の商人國會議員は同州の首府ニオルレアンス港を以て海軍根據地に爲んと頻に運動しつゝありと米國新聞は報せ

# ○犯罪の美術

三、犯罪の美術 (七十八)  
艦峰譯

「へエー、マア子供を連れましで居りますか。」  
「エー、〇〇と老女は深く驚き入るに、伴はさしの攝し取りたる寫眞を、懷中より取り出ら、『左様、これが即ちその子供の寫眞で――』」  
「我が兒でもおる如く、暫時は見入れるが、頗離して遠しながら、」  
「ヘイ、是で御座ります、是で御座ります。  
ふの鼻の鹽梅など、全て母親との體先ア好く成人いたしましたわよ子。』と笑み傾かつて、  
「それで貴方、那の人はまた、ねはなさんを殺したので御座りますか。』と問ふに、  
「左様。』とのみ答ふれば、  
「それでは、あの子のね父さんは殺されます  
子。先ア憫いさうに、先ア憫いさうに、何う  
語らめられず涙ぐむは、何故とは知らぬせ、  
されば實じ御座いなすか子、貴方。でも政府  
の御態度は、御法度で御座りますからチ。』と  
獨り悟らめたるが如き言を云ひながら、尙ほ  
しやくり上げつゝ尚ほ女は一貴方。何うか妻  
を東京に連れて行つて下さいませんか。愈よ  
に話の様で御座りますすれば、その子も不憫で  
御座いますから、チ一貴方。』と袖に臉を拭ひ  
て、鼻つまらせつゝねどく聲するは、切な  
る女の心なり。

伴はふの館人の東京に來らんふと、願ふても  
無き幸福なれども、餘りに突然なれば、一たまり  
さん、それは真成かい、真成に東京に行く氣  
なら、此方も丁度宜いから、連れて行つても  
上げやうが、お前さん家の方は、空けて置い  
ても宜いのかい。』

「へイ、宜う御座いますと、何うぞ連れて行  
くふになさいだが、先刻に聞いた、ね娘さん  
など云ふのは何者か、それを聞き渡いものだ  
が。』

「それは當地では、お答が出來難ねます。何う  
つて下さいませ、男成に連れて行つた御座ります  
ので――。』

と誠の志とは、明に見ゆれば、『それでは行  
くふになさいだが、先刻に聞いた、ね娘さん  
など云ふのは何者か、それを聞き渡いものだ  
が。』

「それではそ  
うから。」  
斯く云ひて遂  
見えたれども、  
ものを、強  
調させば、な  
に参りますれ  
すから。」  
村祿郎と云ふと  
お前さん、それ  
「ハイ、左様に思  
議な事が御  
申した事も御  
判り難ねし居  
云ふのも、國  
らツシツた御  
してから、  
病院にね出  
ります。」  
「フン、氣  
質地の病院  
とか、承つ  
「ハイ。」  
既に狂氣をそ  
れ自に制かん  
されば、泊つて居  
失禮ながらだ  
これでも、差  
宜しからぬよ  
うに狂氣をそ  
れを遣す告げ  
ではれ渡さ  
うござりま  
す。」